

2022年2月20日 礼拝説教要旨

詩編講解説教98「新しい歌」

詩編98：1～9、ルカ2：25～32

詩編第98編も95編から続く一連の「王の即位の歌」の一つであると理解することができます。王の即位というのは、これまでの古い王の支配が終わって、新しい王の支配が始まることを意味しています。わたしたちの国において、王が代わるという経験はないかもしれませんが、例えば、天皇の代替わり、また政権交代ということがあります。でもそこで何かが決定的に変わるということはないでしょう。わたしたちの内面、価値観が180度変えられるような経験はあり得ないと思います。

でも少し目を海外に転じてみますと、政権が代わることで人々が歓喜に沸くという光景をしばしば見るがあります。記憶に新しいところではエジプトやリビアでいわゆる「アラブの春」と呼ばれた民主化運動が起こった時に民衆がまるでお祭りのように、道に出て歓声を上げ、抱き合って喜ぶという光景がテレビに映し出されました。独裁的な政権が倒されて政権が代わることは国民にとっては圧政からの解放であり、喜び以外の何ものでもありません。そういうことを思い浮かべながら、例えば4節以下の部分を読むとこの喜びの意味がよくわかると思います。「全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。歓声をあげ、喜び歌い、ほめ歌え。琴に合わせてほめ歌え、琴に合わせ、樂の音に合わせて。ラッパを吹き、角笛を響かせて、王なる主の御前に喜びの叫びをあげよ」(4～6節)

そこには圧政から解放された人々が喜び踊る姿があります。イスラエルの人々にも、この喜びはよくわかりました。聖書学的には、この第98編にはイザヤ書の後半部分に共通した言葉がよく見られますので、第二イザヤ、あるいは第三イザヤと呼ばれる預言者が活躍した時代に成立したものと考えられます。第二、第三イザヤの時代は、捕囚からの帰還、そして神殿の再建の時期ですので、この98編もやはりその影響を受けていると考えられます。またシリア語訳の聖書、別名ペシッタ訳と呼ばれる聖書ではこの詩編に「民のエジプトからの贖いについて」という表題が付いています。イスラエルにとって捕囚から解放されて国に帰還するということは、第二の出エジプトと理解されていました。例えば7節に「とどろけ、海とそこに満ちるもの、世界とそこに住むものよ。潮よ、手を打ち鳴らし、山々よ、共に喜び歌え」とあります。ここには「海」のイメージがありますが、そこでは出エジプトの時に神さまが海をわけた話を思い浮かべることができます。詩人は捕囚からの解放をイスラエルがかつて経験したエジプトの奴隷からの解放とを重ね合わせて表現したのでしょう。そういう意味で、王の即位の歌は、これまで自分を縛り付けてきた古い支配からの解放であり、自由が回復される喜びが歌われています。だからこそ「新しい歌」(1節)なのです。これまでの古い支配の終焉と新しい支配の到来を歓迎し喜ぶ歌がこの詩編です。そしてこの新しい歌をわたしたちも歌うことができます。

「新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。右の御手、聖なる御腕によって主は救いの御業を果たされた。主は救いを示し、恵みの御業を諸国の民の目に現し、イスラエルの家に対する慈しみとまことを御心に留められた。地の果てまですべての人は、わたしたちの神の救いの御業を見た」(1～3節) 1節に「主は驚くべき御業を成し遂げられた」とあります。イスラエルにとって「驚くべき御業」は海をわけた出エジプトの御業でした。それは人間の経験値が及ばない神さまの介入を意味する表現です。それによって海が開かれ、イ

スラエルは救われました。奴隷の家から解き放たれ、自由になりました。その経験をわたしたちもするのです。それがイエス・キリストの救いです。それはまことの神さまがまことの人となるというまさに驚くべき仕方で現されました。2節「主は救いを示し、恵みの御業を諸国の民の目に現し」とあります。それは神さまの救いの御業が具体的に見える形になって現れたことを示しています。ヨハネ福音書に「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た」（1：14）とあります。この目に見える恵みの御業こそまことの人となられたイエス・キリストに他なりません。ちなみにこの1～3節の中に「救い」と訳されている言葉（イェシュア）が3回繰り返されます。この「救い」（イェシュア）のギリシャ語が「イエスス」であり、イエスの名前になりました。「イエス」という名には、すでに「救い」という意味があります。神さまの救いの御業はまさにこのイエス・キリストによって果たされました。

ルカによる福音書に、主イエスが安息日に会堂でイザヤ書の御言葉を朗読された時のことが記されています。「主の霊がわたしの上におられる。貧しい人に福音を告げ知らせるために、主がわたしに油を注がれたからである。主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放を、目に見えない人に視力の回復を告げ、圧迫されている人を自由にし、主の恵みの年を告げるためである」そして主イエスは言われました。「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と。（ルカ4：18～21）主イエスは、わたしたちを罪と死の支配から解き放つために十字架で死んでくださり三日目によみがえってくださいました。ご自身の命をもって捕らわれている人に解放を、圧迫されている人に自由をもたらしてくださったのです。

わたしたちが、イエス・キリストを主と告白し、洗礼を受けることは、罪と死の支配から解き放たれて、新しい王のご支配の下に入ることです。「だからキリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた」（Ⅱコリント5：17）それはわたしたちの人生を根底から変えてしまうほどの出来事です。そしてその経験をした者は新しい王のご支配にあることを喜び、新しい歌を歌います。

どんなこの世の支配にも屈しない新しい歌を歌う信仰の先達たち、殉教者の姿を何人も思い浮かべることができます。ナチス政権下、捕らえられ処刑された牧師ボンヘッファーは『共に生きる生活』の中で「新しい生活への突破」ということを言いました。罪と死に支配されている時、わたしたちには諦めと虚しさがありました。「どうせ罪人だ」と罪の中に安穩としていました。けれどもわたしたちは新しい主のご支配の中で罪と死に決別し、これを突破していくのです。これは勝利であり敗北ではありません。ボンヘッファーはナチスの下に敗北したのではなくキリストという王の下に勝利していたのです。何より主がわたしたちにその始まりを作ってくださいました。罪と決別し、やがてキリストの勝利を戦い取るのです。キリストに結ばれたわたしたちはすでにその勝利を先取りして「新しい歌」を歌い始めています。